

2015年  
5月号



発行：生活クラブ生活協同組合  
発行責任：理事会  
編集：広報委員会  
茨城県牛久市猪子町 992-676  
TEL 029-874-8510 FAX 029-874-3651  
http://ibaraki.seikatsuclub.coop/

特集：NON-GMO運動

# わたげ

生活クラブ茨城

消費材シリーズ

## 豚肉(平田牧場)

豚肉生産者「平田牧場」との提携は安全なウイナーづくりのため見学に訪れた豚舎でのこと。元気に走り回る仔豚を見て「この豚、食べたい」という組合員の声がかっかけてでした。

### ● 豚肉の美味しさとは

平田牧場では安全で美味しい豚肉を実現するため三元交配豚を開発。生産効率よりも美味しさを選択し、品種改良を重ねました。その美味しさのポイントは脂肪の質。一般では経済効率優先のため成長が早く、脂肪が付きにくい豚づくりをしています。脂肪は豚にとって健康に育つためにはとても重要であり、同時に、適度な脂肪は肉の旨みと柔らかさの元となっているのです。

また、脂肪の質は飼料の影響を大きく受けるため、安全性（PHF、NON-GMO※）と併せて、美味しさの追求のため大麦や飼料米を配合しています。脂肪はこれまで高コレステロールなど、生活習慣病の要因として敬遠されがちでしたが、豚肉の特に脂身に含まれるリノール酸やビタミンB1など、たんぱく質源としての価値が見直されています。良質なたんぱく質を摂りましょう。

### ● こめ育ち豚ってどんな豚？

日本の食料自給率は先進国中最低の40%以下。中でも穀物飼料はほとんどを海外に依存しています。

いっぽう、日本の水田は米の消費減少により、その40%が休耕田や転作田になっています。稲作農家の収入は減り、また荒れた遊休農地は害虫の巣にもなって、地域の環境悪化を招いています。そのため農業はさらに衰退し、食料自給率の低下に歯止めがかからない状態になっているのです。「食」は私たちの「命」の源。その「命」は海外の「食」に頼りっ放しで、安

全も任せっきりの状態にあるのです。

そんな中で、1996年から休耕田を利用して飼料用米を作り、それを家畜の飼料にすることで食料自給率を高めるとい取組みが始まりました。平田牧場の堆肥を使用し飼料用米を生産することで、地域循環型農業に近づけ、日本の穀物飼料自給率を高め、水田を守り水を守ることを目指します。

こめ育ち豚を私たちが食べ続けることで、庄内から始まった飼料用米づくりも、自給力を高めるという国の政策にもつながっています。

### ● 「豚肉学習会」へ行ってみよう

平田牧場の本拠地である庄内は、同時に生活クラブの食糧基地として毎年「庄内交流会」を開催。全国各単協から2~3名の組合員がその目で生産現場を訪れ、生産者と語り合い、そして自分たちが実践している「共同購入」とどう結びついているのかを学びます。「平田牧場」での豚舎見学では「と場」「飼育農場」等、見学と共に生産者と直接話ができ、多くの「学び」「知る」「命を頂く」をキャッチします。

牛久ブロックの今年の重点品目は豚肉。そこで5月には「豚肉学習会」が開かれます。ぜひお友だち誘って参加して下さいね。

牛久ブロック主催

## 豚肉学習会開催

日時：5月15日(金)  
午前10~12時  
牛久センター

平田牧場の生産者が来るよ!

組織概要 (2015年3月末)	班組合員数 2,287人 個配組合員 2,563人 組合員数 4,850人	3月 世帯利用額 19,670円 3月 総利用高 94,930千円 2月 世帯出資額 120,023円	【牛久センター】 牛久市猪子町 992-676 TEL 029-872-7521 FAX 029-872-7523	【水戸センター】 水戸市元石川町 302-12 TEL 029-291-8280 FAX 029-291-8281
--------------------	---	---	--	--

※PHF=収穫後農薬を散布しない

NON-GMO=遺伝子組み換えされていない